

# 熊本県英語教育改善プラン

## (1) 英語教育の状況を踏まえた目標

※2022年度までの実績値及び目標値から

(「英語教育実施状況調査」・「目標管理シート」における指標。②については、本県独自の調査。2020年度の実績値は県独自調査による参考値。)

## ■小学校

No.	指標内容		2019	2019	2020	2020	2021	2021	2022
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
①	学習到達目標の整備状況	設定(%)			50.0		75.0	87.9	100
		公表(%)			35.0		40.0	38.1	45.0
		達成把握(%)			73.0		77.0	72.0	80.0
②	小6「英語が『好き』」と答えた生徒の割合			67.9	69.0	63.6	71.0	65.0	73.0
③	児童の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	5年						96.0	100
		6年						97.7	100
④	パフォーマンステストの実施状況(5年)	やり取り(回)						4.0	4
		発表(回)						3.5	4
⑤	パフォーマンステストの実施状況(6年)	やり取り(回)						3.9	4
		発表(回)						4.4	4

## ■中学校

No.	指標内容		2019	2019	2020	2020	2021	2021	2022
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
⑥	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100
		公表(%)	35.0	29.2	35.0	27.5	40.0	65.3	45.0
		達成把握(%)	70.0	63.3	65.0	63.3	70.0	84.3	75.0
⑦	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)		88.0	86.2	90.0		93.0	76.5	95.0
⑧	求められる英語力を有する生徒の割合(%)		45.0	40.5	45.0	42.9	48.5	45.2	50.0
⑨	中3「CEFR A1 レベル相当以上の取得者」の割合(%)			27.1	30.0	26.3	33.0	32.2	36.0
⑩	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	4.0	3.3	4.0		4.0	4.1	5.0
		ライティングテスト(回)	3.0	2.1	3.0		3.0	2.6	4.0

## &lt;成果&gt;

- ・③小学校の「児童の授業における英語による言語活動時間の割合」については、2学年とも9割を超えた。
- ・⑥中学校の「学習到達目標の整備状況」については、目標値と比べ「公表」25.3ポイント増加、「達成把握」14.3ポイント増加と、どの項目も目標値を大きく上回った。要因の1つとして、新学習指導要領の全面実施に伴い、設定等の見直しが図られたためと考えられる。
- ・⑧中学校の「求められる英語力を有する生徒の割合」及び⑨「中3『CEFR A1 レベル相当以上の取得者』の割合」については、2019年度と比較して、それぞれ⑧4.7ポイント増加⑨5.1ポイント増加

となった。

<課題>

- ・①小学校の「学習到達目標の整備状況」については「設定」は目標値を超えているが「公表」は、1.9ポイント減少、「達成把握」については5ポイント減少と、目標値を下回った。
- ・②小6「英語が『好き』」と答えた児童の割合については、昨年度の実績値を1.4ポイント上回っているが、目標値には6ポイント届かず、また2019年度の実績値より減少している。
- ・⑦中学校の「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」については、小学校が9割を越えているのに対し、目標値から16.5ポイントの減少となった。また、2019年度に比べると、9.7ポイント下回った。この要因の1つとして、教員の「言語活動」に対する理解が深まったことにより、これまでの「指導」と「言語活動」の区別が明確になってきた結果とも考えられる。
- ・⑧中学校の「求められる英語力を有する生徒の割合」及び⑨「中3『CEFR A1 レベル相当以上の取得者』の割合」については、目標値と比べ⑧3.3ポイント⑨0.8ポイント下回り、ともに達成できなかった。

<目標>

- ・①小学校における「学習到達目標の整備状況」の「設定」100%を目指す。また、「指導と評価の一体化」の実現を図る授業の充実により「公表」「達成状況の把握」の数値の向上を目指す。
- ・②小学校における英語学習への意欲は、中学校・高校での英語学習においても、特に重要であることを踏まえ、小学校の教師の授業力を向上することで「英語が好き」な児童の目標値73%を目指す。
- ・⑦中学校の「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」については、教員の指導力向上を目指し、新学習指導要領に基づいた授業の周知を図り、中学校の教員の授業力向上を図ることで、目標値95%を目指す。
- ・⑧⑨については、生徒の英語力を示す数値の1つであり、特に⑨については、本県の「くまもと英語教育推進プラン」の目標値である。県の外部検定試験受験に伴う市町村への補助事業の活用等により、生徒の積極的な受験を促し、目標値の達成を目指す。

■高等学校 ①～⑥は目標管理シートの番号

※「英語教育実施状況調査」における指標（③以外は%）

No.	指標内容	2019	2019	2020	2020	2021	2021	2022	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	
①	学習到達目標の整備状況	設定	100	100	100	100	100	100	
		公表	70	51.3	80	67.5	90	82.5	100
		達成把握	75	53.8	80	60	90	66.3	100
②	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	75	48.3	75	46	75	57.7	75	
③	パフォーマンステストの実施状況(コミュニケーション英語Iでの実施回数)	スピーキングテスト	1.5	1.5	2	2.1	2.5	3.5	3
		ライティングテスト	1.5	1.3	2	1.4	2.5	1.4	3
④	英語担当教師の授業における英語使用状況	70	56.3	75	49.9	80	51.9	80	
⑤	求められる英語力を有する担当教師6+の割合	90	88.8	91	89.9	92	91.4	93	
⑥	求められる英語力を有する生徒の割合	50	41.3	50	41	50	42.6	50	

※2020年度の実績値は県独自調査による参考値

「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」に示す資質・能力を育成する。

**<成果>**

- ①CAN-DO リストの公開率、達成状況の把握率が向上した。
- ②授業における生徒の言語活動時間の割合が増加した。
- ③パフォーマンステストの実施回数が増加した。
- ④授業での発話の半分以上を英語で行っている英語担当教師の割合が増加した。
- ⑤国が示す目標を達成している。
- ⑥求められる英語力を有する生徒の割合が増加した。

**<課題> ★は指標による重点課題**

- ①CAN-DO リストの公開率、達成状況把握率が目標値に達していない。CAN-DO リスト達成状況の把握が各学校でうまくなされていないことなどが要因として考えられる。
- ②授業における生徒の言語活動時間の割合が目標値に達していない。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響、発信力を強化する4技能統合型の言語活動の指導が不十分であることなどが要因として考えられる。
- ★③外国語の一部の科目でパフォーマンステストが計画的に実施されていない。指導と評価の計画におけるパフォーマンステストの位置づけが十分になされていないことなどが要因として考えられる。
- ★④授業での発話の半分以上を英語で行っている英語担当教師の割合が目標値に達していない。また、外国語の一部の科目において、英語担当教師の授業における英語使用の割合が目標値に達していない。要因として、生徒の実態に応じた教師の授業中の英語使用や、授業実践に関する研修が十分でないことなどが考えられる。
- ⑤課題は特になし
- ⑥CEFR A2 レベルを取得した生徒の割合が減少した。求められる英語力を有する生徒の割合が目標値に達していない。要因として、受検者数の減少や各学校における外部検定試験に関する分析が不十分であることなどが考えられる。

**<目標>※ [] 内は育成を目指す主な資質・能力 ★は指標による重点課題**

- ①CAN-DO リストの公開の目標を100%とする。教師が指導の改善につなげるため、達成状況の把握の目標を70%とする。〔学びに向かう力・人間性等〕
- ②生徒の英語による言語活動時間の割合の目標を75%とする。〔知識及び技能、思考力・判断力・表現力等〕
- ★③スピーキングとライティングのパフォーマンステストを各学期に1回以上実施する。〔知識及び技能、思考力・判断力・表現力等〕
- ★④英語教師の授業における英語使用状況の目標を80%とする。〔知識及び技能、思考力・判断力・表現力等〕
- ⑤求められる英語力を有する担当教師の割合を90%以上とする。
- ⑥求められる英語力を有する生徒の割合の目標を50%、CEFR A2 レベルを取得した生徒の割合の目標（熊本県の第3期教育プラン及び総合戦略の目標指標）を42%とする。〔知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等〕

**■小中高連携**

No.	指標内容	2019	2019	2020	2020	2021	2021	2022
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
①	小中連携の割合・実施の有無(%)		90.8	100	74.2	100	90.1	100
②	小学校と連携している高等学校の割合(%)		10.6		10.6	12.0	8.5	15.0
③	中学校と連携している高等学校の割合(%)		36.2		25.5	28.0	34.0	30.0

**<成果>**

- ・①「小中高連携の割合・実施の有無」については、2020年度はコロナ禍の中、目標値から16.6ポイント下回ったが、本年度は2019年度の数値に戻りつつある。また、本年度は「英語教育改善プラン推進事業」による「ALT等を活用した小中高連携事業」を行い、小中高各1校を指定校として授業実践等を行い、その取組を普及することができた。また、「小・中英語授業づくりプロジェクト」の研修で、小中連携についての内容も取り入れたため、英語担当教員への意識付けができた。
- ・③高校と連携している中学校については、目標値を6ポイント上回った。
- ・③中学校と連携をした高等学校の割合が増加し、情報交換等を行う機会が増えた。

**<課題>**

- ・①研修等では、学習内容のつながりや児童生徒の実態把握、情報交換を中心に、小中高連携の大切さを伝えているが未だ目標値には至っていない。
- ・②小学校と高校の連携の数値が3.5ポイント目標値を下回った。
- ・②③小学校と高等学校との連携の割合が目標値を達成していない。中学校と高等学校との連携について、連携の目的が明確でなく、学びが系統化されていない。新型コロナウイルス感染症拡大の影響や、「育成する資質・能力」を軸にした情報交換や意見交換、協議も不十分である。

**<目標>**

- ・①～③コロナ禍の中での連携の方法も含め、モデル校における好事例等の紹介等を通して研修で取組を進めていく。
- ・②③小・中・高等学校の学びの系統化を推進するため、高等学校と小学校の連携の目標を15%、高等学校と中学校の連携の目標を35%とする。

（2）（1）の目標達成のための取組

■小学校 ■中学校

<取組概要>（①～⑩は（1）英語教育の状況を踏まえた目標 ■小学校 ■中学校から）

ア：小学校英語授業づくりプロジェクト 2021年度～（①～⑤に対応）

（目的）新学習指導要領に基づく英語担当教員の指導力向上、英語授業の質の向上

（対象）小学校専科教員及び小学校英語担当教員

（内容）県指導主事訪問による専科教員等、英語担当への指導・助言。新学習指導要領の周知による英語担当教員の指導力向上を目指し、県独自の指標 2021年度の小6「英語が『好き』」と答えた児童の割合の達成目標(73%)を目指す。

イ：小学校英語授業映像資料作成 2021年度～（①～⑤に対応）

（目的）小学校英語教育推進リーダーによる授業動画コンテンツを作成し県内に普及

（対象）県内英語担当教員

（内容）英語教育推進リーダー及び指導教諭（スーパーティーチャー）による授業映像資料を作成し、配信。新学習指導要領の目標を踏まえた授業を周知する。

ウ：中学校英語授業づくりプロジェクト 2020年度～（⑥～⑩に対応）

（目的）新学習指導要領に基づく英語担当教員の指導力向上、英語授業の質の向上

（対象）重点校を中心に、県内 50校 50名程度を対象として実施。

（内容）県教育機関との連携を踏まえ、県教育委員会・県立教育センター・教育事務所の指導主事による訪問指導（約 50校の英語教員×2回）。授業後の研究会では英語教科会を兼ね、学習指導要領の周知及び小中連携等の研修を行う。また、各学校で外部検定を活用した目標設定を行い、P D C A サイクルによる取組により英検等の外部検定試験の受験を総合的に支援し、県独自の指標 2022年度の中3「CEFR A1レベル相当以上取得率」の割合の達成目標(36.0%)を目指す。

エ：中学校英語担当教員研修 【新規】（⑥～⑩に対応）

（目的）英語担当教員の授業力向上を目指し、県内の英語担当教員が、学習指導要領及び「熊本の学び」に基づく指導・評価及び指導体制等について具体的かつ実践的な授業改善について学ぶ機会を提供する。

（対象）県内すべての英語担当教員〔各教育事務所ごとのオンライン実施予定〕

（内容）令和3年度全面実施の新学習指導要領に基づく授業実践の周知を行う。本県の英語教育の目標を共有し、新学習指導要領及び「熊本の学び」に基づく指導・評価及び指導体制等の在り方について具体的かつ実践的な授業改善について学ぶ機会を提供する。更にそれぞれの管内における英語教育の課題解決についても対策等を講じる。

■高等学校

①～⑥は目標管理シートの番号〔 〕内は育成を目指す主な資質・能力

※（1）で述べた課題の解決に向けた取組を行う。★は指標による重点課題

①CAN-DO リスト達成状況把握について〔学びに向かう力・人間性等〕

<仮説> 各学校が、初めに CAN-DO リストを盛り込んだ「指導と評価の整理票」を作成し、これに基づき「指導と評価の計画」を作成し、生徒に配付する。これにより、生徒と教師が学習の目標（育成を目指す資質・能力）と学習の計画を共有すれば、生徒は見通しを持って学習に取り組むことができ、学習意欲の向上及び学習改善につながる。教師は、計画的な指導と評価が可能になり、各学校において学習到達目標の達成状況の把握が進み、指導の改善につながる。

<取組概要> 「指導と評価の整理票」及び「指導と評価の計画」の作成

（対象）県立高等学校

（内容）各学校に CAN-DO リストを盛り込んだ「指導と評価の整理票」の作成提出を求め、指導主事が指導・助言を行うとともに、好事例を学校間で共有する。各学校は整理票を

基に、指導と評価の計画を作成し、生徒へ配付を行い、生徒や保護者と共有する。

- ＜成果検証＞・英語教育実施状況調査（CAN-DO リスト達成状況把握の項目の数値）
- ・各学校における授業評価

●CAN-DO リストの学校ホームページでの公開についての取組は継続する。

②生徒の言語活動の割合増加について [知識及び技能、思考力・判断力・表現力等]

＜仮説＞ 指導主事の訪問指導等による英語教師への継続的な指導・助言を実施すれば、英語教師が授業改善の具体例を学び、教師の言語活動に対する意識の変容を促し、学校全体で言語活動の実施に取り組むことで、生徒の言語活動の時間が増加する。これにより、授業が実際のコミュニケーションの場となり、生徒の授業における言語活動の機会増加につながり、生徒の発信力が強化され、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等が育成される。また、英語教師への即興型英語ディベートの取組を継続することで、教師がディベートの具体的な指導法を学び授業でのディベート実践が促進される。

＜取組概要＞ 指導主事による学校訪問やリモートによる指導

（対象）県立中学校及び県立高等学校の英語教師

（内容）各学校に対して、指導主事による訪問やリモートにより、指導と評価の計画に基づいた言語活動の充実、外国語指導助手の活用等が図られているか、また、課題等を把握し、課題の解決のための指導・助言を行う。

- ＜成果検証＞・英語教育実施状況調査（生徒の言語活動の割合に関する項目の数値）
- ・各学校における授業評価
- ・外国語指導助手の活用状況調査

●令和3年度の訪問指導の取組を発展・充実させる。即興型英語ディベートの取組は継続する。

★③パフォーマンステストの回数増加について [知識及び技能、思考力・判断力・表現力等]

＜仮説＞ 県教育委員会がパフォーマンステストの実施モデルを示し、パフォーマンステストの内容と評価の観点に関する指導を行うとともに、パフォーマンステストを「指導と評価の整理票」に位置付けるように指導すれば、各学校において外国語の全ての授業でパフォーマンステストが計画的に実施され、パフォーマンステストの回数増加につながる。さらには、パフォーマンステストによる学習内容に対する適切な評価と結果のフィードバックによって、生徒の学習改善につながるとともに、教師の指導の改善が進むことで、生徒の資質・能力の育成が図られる。

＜取組概要＞ 県教育委員会によるライティングテストの作成

（対象）県立中学校及び高等学校英語教師及び生徒

（内容）県教育委員会において、ライティングテストを開発し、各学校に示すモデル例を作成する。また、パフォーマンステストを位置付けた「指導と評価の整理票」の作成提出を求め、指導主事が指導・助言を行う。

- ＜成果検証＞・英語教育実施状況調査（ライティングテスト回数に関する項目の数値）
- ・各学校における授業評価

★④英語担当教師の授業での英語使用率の増加について [知識及び技能、思考力・判断力・表現力等]

＜仮説＞ 英語教師に対して、具体的な実践に基づいた英語を用いた言語活動等の充実に関する研修を実施すれば、英語教師が授業中に生徒の実態に応じて簡潔でわかりやすい英語を使用する能力を身に付け、生徒の言語活動を促進する授業を実施できるようになる。これにより、英語教師の授業における英語使用増加につながる。

＜取組概要＞ 指導力向上研修会（学科種別、地域別等で開催）

（対象）県立高等学校の英語教師

（内容）各学校の代表を集めて、指導教諭（スーパーティーチャー）や英語教育推進リーダー等によるスピーキングやライティングの指導、評価方法等の具体的な実践を共有するため、ワークショップ形式の研修会を開催する。研修会参加者は各学校において、教科会等で他の教師と研修の内容を共有する。なお、開催については、学科種別、地域別等で

実施する。

- ＜成果検証＞・英語教育実施状況調査（英語教師の英語使用に関する項目の数値）
  - ・各学校の授業評価
  - ・研修参加者へのアンケート調査

⑤求められる英語力を有する担当教師について

（内容）昨年度までと同様に継続して、訪問指導や研修時に外部検定試験受検を奨励し、求められる英語力を有する英語教師の割合を維持する。

⑥求められる英語力を有する生徒について [知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等]

＜仮説＞ 各学校が、CEFR A2 レベルの取得率等について過去3～5年程度の英語教育実施状況調査を分析し目標設定等を行えば、各学校が主体的に英語教育の改善に学校全体として取り組むことが見込まれる。また、昨年に引き続き、県教育委員会が非課税世帯を対象に受検料を補助し、教師が県独自の指標を目安に効果的に生徒の外部検定試験の受検を推奨すれば、主体的に学習に取り組む生徒が増加し、受検する生徒の増加が見込まれる。さらに、教師が試験の結果を組織的に分析して活用すれば、各学校において指導改善が進み、求められる英語力を持つ生徒の割合が増加する。

＜取組概要＞（新規のみ）英語教育実施状況調査のフィードバック

（対象）県立高等学校

（内容）県教育委員会において、各学校の過去3～5年程度の英語教育実施状況調査から、CEFR A2 レベル取得者の推移、授業中の英語使用や言語活動の割合についてなどのデータをまとめ、各学校へフィードバックする。各学校は、それに基づき分析と目標設定等を行う。

- ＜成果検証＞・英語教育実施状況調査（求められる英語力を有する生徒に関する項目の数値）
  - ・県独自の指標（学びの基礎診断と CEFR レベルを関連付けた指標）

●非課税世帯への外部検定試験受検料補助に関する取組及び、高校生のための学びの基礎診断と CEFR レベルを関連付けた県独自の指標づくりとその活用に関する取組は継続する。

①～⑥についての成果普及

- ・各学校のホームページでの CAN-DO リストの公開
- ・教育課程熊本県研究協議会や研修等での実践例の共有
- ・指導力向上研修会等による実践報告
- ・学校訪問やリモート指導時における情報提供
- ・各学校へのライティングテストのモデル例等の配付

■小中高連携（⑪～⑬は（1）英語教育の状況を踏まえた目標 ■小中高連携から）

【英語教育改善プラン推進事業】

＜取組概要＞

ア：ALT等を活用した小中高連携モデル校事業 2021年度～〔英語教育改善プラン推進事業〕（⑪～⑬に対応）

（目的）学びの系統性を踏まえた授業づくりに対する英語担当教員の意識向上。各英語担当教員の授業改善の推進。児童生徒の主体的な学びの促進。小・中・県立高等学校における校種間の連携促進。より実践的な言語活動のために外国語指導助手を活用。また新型コロナウイルス感染拡大防止対応としてもICTを活用し、小・中、中・高でオンライン授業を通じた小・中・高連携による授業改善

（対象）小・中・県立高等学校（各1校ずつモデル校を決定）

（内容）ALTの交流及びICTを活用し、小・中、中・高でオンライン授業を通じた小・中・高連携による交流及び英語担当教員の授業改善を行う。また、公開授業を行い、オンデ



マンドで配信し、交流授業の内容等を小中高の教員で共有する。

イ：県立中高一貫校における英語の表現力育成についての取組

(対象) 県立中高一貫校生徒、関係英語教師、

(内容) 県立中高一貫校において、英語の表現力育成について学びの系統化を図る授業実践を行う。また、即興型英語ディベート等の公開授業及び授業研究会を行い、授業の実際や指導法について情報交換・意見交換を行う。

<成果検証>

- ・英語教育実施状況調査 (小中高連携に関する項目の数値)
- ・熊本県学習・学力調査 (小・中学校)
- ・参加者に対するアンケート調査

<成果普及>

- ・熊本県教育委員会ホームページで取組の実際や効果的な取り組み事例等を紹介
- ・各種会議、研修等での情報提供及び資料として活用
- ・教育課程研究協議会、研修等での発表
- ・各校のホームページでの取組紹介
- ・公開授業のオンデマンド配信
- 昨年度の取組を発展させて継続する

■小学校英語専科指導に係る加配定数の取り扱いについて

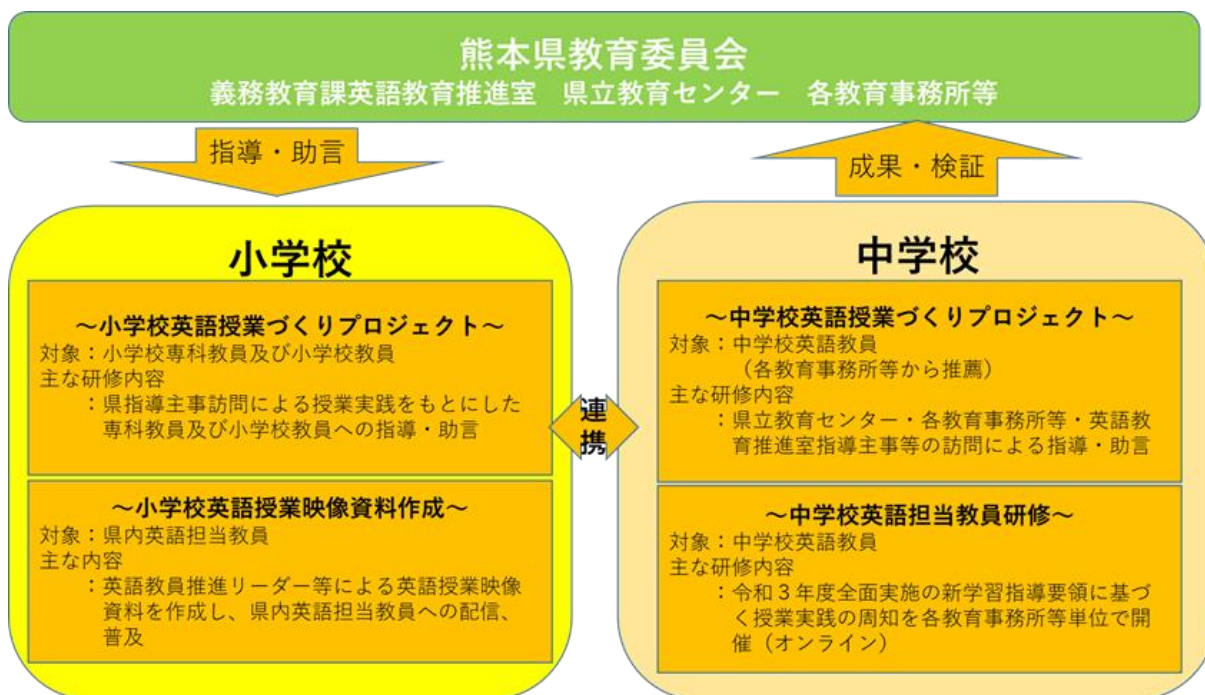
【小学校専科教員について】

〈2022年度 加配定数の取り扱いについて〉

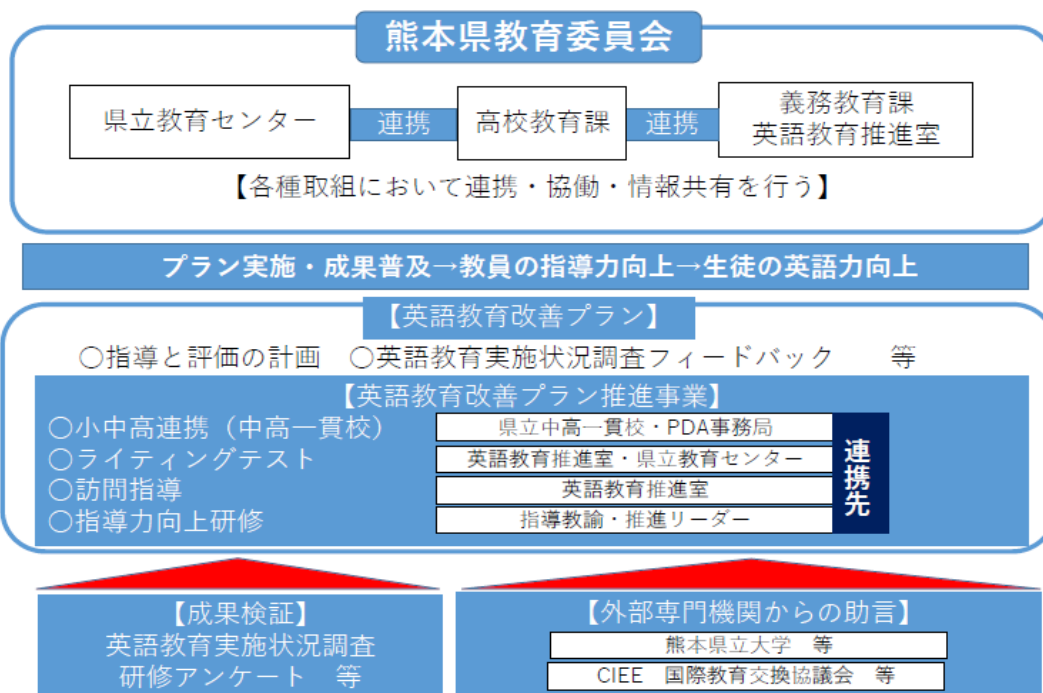
- ・小学校教諭等受考者における一定の英語力を有する者への加点制度
- ・小学校教諭等受考者における青年海外協力隊等勤務経験者への特別選考制度
- ・中学校教諭等受考者に対する小学校教諭等の併願制度
- ※中学校英語を受考する際、第2希望として小学校を併願することができる。

(3)(2)を実施する体制の概要

■小学校 ■中学校



■高等学校



■小中高連携



# 「くまもと英語教育推進プラン」 (令和2～5年度)

義務教育課英語教育推進室

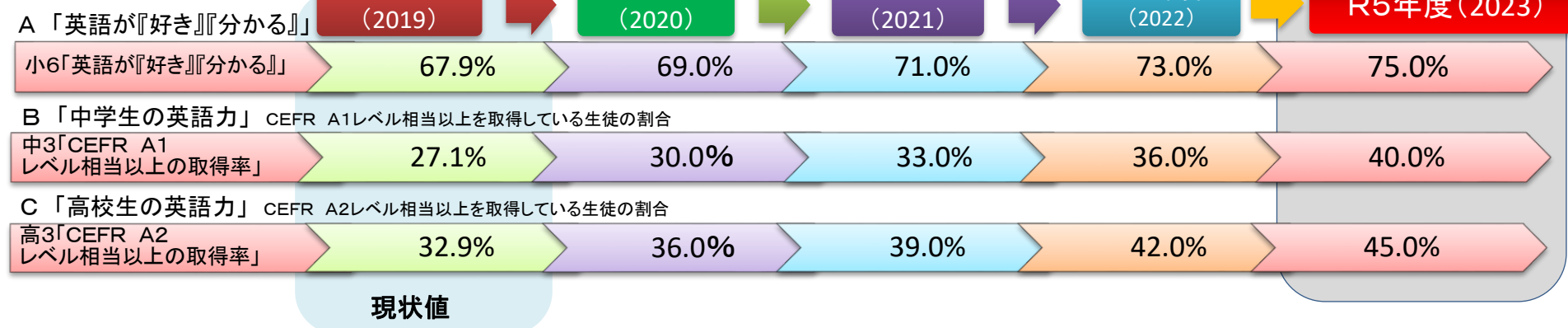
## 1 現状・課題

○英語が「好き」「分かる」の割合の低下 ○R1全国学力・学習状況調査において全国平均と-3ポイントの差 ○英語担当教員の指導力の個人差

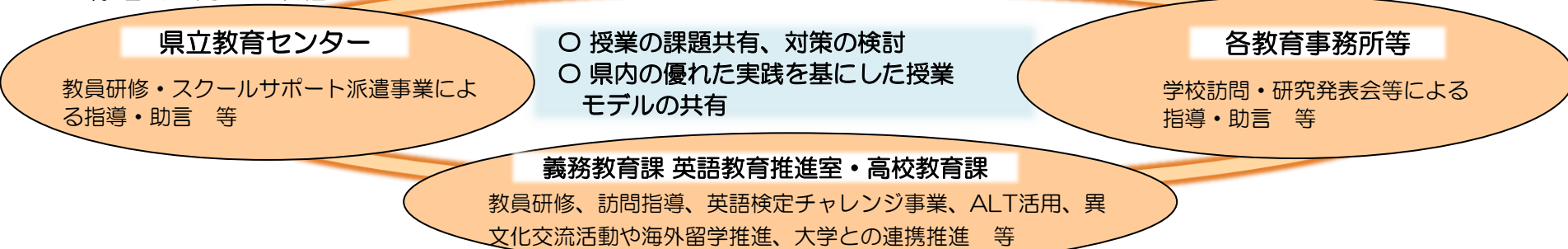
## 2 めざす姿 ～10年間(小3から高3まで)を見据えた児童生徒像～

○自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りを持ち、多様な文化をもつ人々と、英語で考えや気持ちを伝え合う児童生徒  
○英語学習に興味を持ち、異文化交流体験や外部検定試験等に積極的にチャレンジし、主体的に学び続ける児童生徒

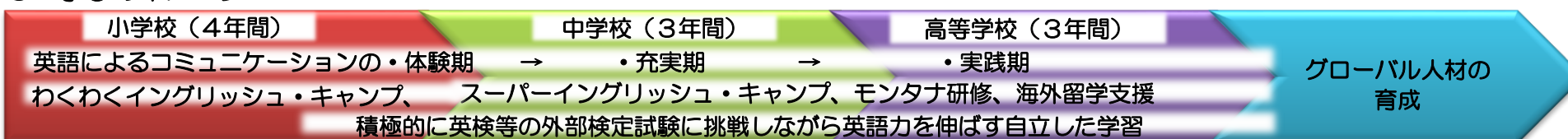
## 3 現状及び目標値



## 4 目標達成へ向けた取組



## 5 学びのイメージ



熊本県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		公表(%)	100	44.7	70	51.3	80	90	82.5	100	100	
		達成状況の把握(%)	100	70.6	75	53.8	80	90	66.3	100	100	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	75	52	75	48.3	75	75	57.7	75	75		
	③パフォーマンステストの実施状況											
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3	1.4	1.5	1.5	2	2.5	3.5	3	3
			コミュニケーション英語Ⅱ	3	1.6	2	1.7	2	2.5	2.9	3	3
			コミュニケーション英語Ⅲ	3	0.4	1.5	1.2	2	2.5	1.5	3	3
		○ライティングテスト(回)	英語表現Ⅰ	1.5	0.5	1.5	0.3	2	2.5	1.8	3	3
			英語表現Ⅱ	1	0.8	1.5	0.8	2	2.5	1.3	3	3
			英語表現Ⅲ	1.5	1	1.5	1.3	2	2.5	1.4	3	3
	新課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2	1.1	1.5	1.3	2	2.5	1.2	3	3
			コミュニケーション英語Ⅱ	1	0.7	1.5	0.8	2	2.5	1.3	3	3
			コミュニケーション英語Ⅲ	1	1.5	1.5	1.7	2	2.5	1.9	3	3
		○ライティングテスト(回)	英語表現Ⅰ	2.5	2	2	2.7	2	2.5	1.9	3	3
			英語表現Ⅱ									
			英語表現Ⅲ									
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	57.5	70	56.3	75	80	51.9	80	80		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	90	88.2	90	88.8	91	92	91.4	93	93			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50	38.3	50	41.3	50	50	42.6	50	50			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99.2	100	100	100	100	100	100	100
		公表(%)	50	25.6	35	29.2	35	40	65.3	45	45
		達成状況の把握(%)	70	63.6	70	63.3	65	70	84.3	75	75
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	85	86.8	88	86.2	90	93	76.5	95	95	
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	4	3.3	4	3.3	4	4	4.1	5	5
		ライティングテスト(回)	3	2.5	3	2.1	3	3	2.6	4	4
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	86.4	88	83	85	87	82.3	90	90		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	33	31.8	35	32.6	35	38	37.4	40	40		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40	40.8	45	40.5	45	48.5	45.1	50	50		

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				50	75	87.9	100	100	100
		公表(%)				35	40	38.1	45	45	45
		達成状況の把握(%)				73	77	72.0	80	80	80

独自No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小①	小6「英語が『好き』と答えた生徒の割合(%)」		74.4		67.9	69	63.6	71	65.0	73	73
中②	中3「CEFR A1レベル相当以上の取得者」の割合(%)		22.1		27.1	30	26.3	33	32.2	36	36
高③	高3「CEFR A2レベル相当以上の取得者」の割合(%)		23.7		33.7	36	34.4	39	33.3	42	42
小中④	小・中連携の割合(実施の有無(%)		95		90.8	100	74.2	100	90.1	100	100
高⑤	小学校と連携している高等学校の割合(%)		12		10.6		10.6	12	8.5	15	15
	中学校と連携している高等学校の割合(%)		32		36.2		25.5	28	34.0	30	30